2013 12/24 m

月ぎめ 本体価格 3,738円(税込み 3,925円)、1部売り(税込み)朝刊 150円、夕刊 50円　第3種郵便物認可

小学校で息子に火、重体

別居の父、自殺図り？死亡

23日午前10時半ごろ、東京都文京区千駄木2丁目の区立汐見小学校に、会社員の男(49)が侵入し、同小3年の次男(9)に灯油のような液体をかけ、自らも液体をかぶって火を付けた。2人は病院に搬送されたが男は死亡し、次男は意識不明の重体。男は妻と離婚調停中で、次男とも別居中だった。警視庁は男が次男を巻き添えに自殺を図ったとみている。

妻の自宅周辺のパトロールや定期的な連絡を続けた。その後は男が押しかけてこなかったことから、妻らの了解を得て昨年12月に対応を打ち切った。それ以降、妻からの相談はなかったという。

同小6年の男児(11)は「2週間ほど前、下校中に次男から『相談がある』と持ちかけられ、公園に誘われた。次男は『最近、お父さんが変な行動を取るようになっている』と暗い表情で打ち明けた」と話した。

現場は、JR日暮里駅の西約1キロの住宅街。

子に会えずエスカレートも

離婚問題に詳しい榊原富士子弁護士の話

事実関係が明らかにならないとはっきりしたことは言えないが、離婚までの過程で子どもに会えなくなった親の行動がエスカレートすることはありうる。家族という生きる希望を失うことになるからだ。カウンセリングなどでつらさを乗り越えられる人はいいが、自己中心的で攻撃的な人の場合、子の幸せを考えられなくなってしまうことがある。手紙や写真を仲介役が手渡して間接的な面会をさせるなど、子と引き離される親も孤立させず、生きる希望をつなぐような取り組みも求められるのではないか。

朝日新聞　新聞定価 朝

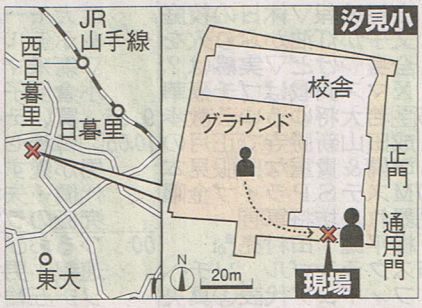
都内 妻と離婚調停中

同庁によると、校庭に突然現れた男が、野球の練習をしていた次男の手を引いて校舎裏に連れ出し、いきなり灯油のような液体をかけて火を放ったという。

通報を受けて署員が駆けつけると、2人は全身にやけどを負った状態で倒れ、近くに液体が入っていた缶とライターが転がっていたという。同庁が液体の鑑定を進めている。

同庁によると、男は家族と2010年9月から別居していたが、離婚をめぐって妻との間にトラブルも起こしていたという。離婚調停中だった昨年5月、妻が上野署に「別居中の夫が『子どもに会いたい』と自宅や学校に押しかけ、暴力をふるう。息子も精神的に参っている」と相談していた。

相談を受けて上野署は、



野球の途中 連れ出す

冬休みを間近に控えた3連休の最終日。小学3年生の男児が、別居中の父親に灯油のようなものをかけられ、火を付けられた。

「助けて！」

午前10時半ごろ、汐見小前のアパートで集金をしていた新聞販売所の男性(44)は叫び声を聞いた。同校の通用門から校庭に抜ける細い通路で大人と子どもが炎に包まれているのが見えた。

「大変だ」。すぐに現場に駆けつけたが、炎は腰の高さまで上がっていた。校内にいた保護者も加わり、大人4人がジャンパーをかぶせて火を消そうとしたがなかなか消えなかった。子どもは「助けて」と叫びながら、バタバタ動いていた。

4～5分後に消し止めたが、2人とも全身の服が焼け焦げて真っ黒になっていた。ただ、子どもは意識があり、救急車に乗り込む時には「お父さんが……」と言っていたという。

男性は「助かってくれればいいが」と話した。

文京区によると、この日は男児が所属する地域の少年野球チームに校庭を開放していた。事件当時は親子対抗の親善試合をしており、大人15人、子ども20人ほどが参加。遅れてくる親子もいたため、通用門が事件発生時まで開いたままだった。

同校関係者は「父親は以前にもよく練習を見に来ていたので、周囲も不自然に思わなかったのではないか」と話す。

男児が被害にあった現場周辺を調べる捜査員ら。校舎脇の敷地（右上）に焦げた跡が残っていた＝23日午後1時16分、東京都文京区千駄木2丁目の汐見小、本社ヘリから、杉本康弘撮影